

【参加者募集】まつりで庄内町が“もっと楽しく”なる！ まつりで町おこしセミナー

日本最大級のまつりメディア「オマツリジャパン」を運営する(株)オマツリジャパンより“祭り専門家”大山勝廣氏をお招きし、まつりで町おこしの事例等について講演いただきます。さらに、庄内町でできる新たなまつりの企画を参加者全員で考えるワークショップを実施。あなたのアイデアが実際のまつりの企画になるビッグチャンスです！お菓子、飲み物付きですので、ぜひお気軽にお越しください。

- 日時：12/21(土) 10:00～13:00 (受付9:30～)
- 場所：コアアルザ
- 対象：まつりが好きな方、町づくりに興味のある方
- 参加費：無料 (お菓子、飲み物付き)

●内容：【第一部：講演会】

「まつりづくりは町づくり！新しいまつりのカタチを考えよう」
講師：(株)オマツリジャパン 大山勝廣氏

【第二部：ワークショップ】

庄内町のまつりの企画を作ってみよう！



講師：大山勝廣氏

今年8月の夏宵まつりの様子

終了後、まつりのプロとの ランチ懇親会も開催！

- 日時：12/21(土) 13:00～15:00
- 場所：コアアルザ
- 参加費：1,000円
- ※当日支払い、ランチ代含む

●申込方法：電話、FAX、Webまたはクラスの窓口にて受付。QRコードからも申込みできます。

●申込締切：12/13(金)

■問・申込み：町観光協会

☎0234-42-2922

FAX0234-43-6422



インフルエンザを 予防しましょう

インフルエンザは、感染した人のせきやくしゃみから放出されたウイルスを吸い込むことで感染します。予防接種をしても感染することがありますが、発病や重症化予防には有効です。かかったかなと思ったら、早めに受診し無理せず休養しましょう。発症後5日を経過し、かつ解熱後2日間（幼児は3日間）は自宅療養が必要です。

●インフルエンザの予防方法：

- ①こまめな手洗いとうがい
- ②マスクの着用
- ③60%程度の湿度を保つ
- ④流行時は人混みを避ける



【高齢者インフルエンザ予防接種費助成】

- 実施期日：12/28(土)まで
- 対象：満65歳以上の方
- 助成金：1,700円 (1人1回)
- 接種方法：健康保険証を持参し、かかりつけ医と相談のうえ接種してください。
(今年度、お知らせハガキは送付していません)
- 問合せ：保健福祉課健康推進係 ☎0234-56-2904

町民ワークショップ 参加者募集

町では、来年度に第二次総合計画の後期基本計画の策定を予定しています。

今年7月に実施した町民幸福度アンケート調査で把握できない「庄内町に住むことの幸福」について、みんなで考えてみませんか？

●日時：12/21(土) 13:30～

●場所：響ホール

●内容：

- ①基調講演「何が人を幸福にするのか」
講師／宇都宮輝夫氏(北海道大学名誉教授)
- ②グループワーク

●対象：町内在住在勤者20人程度 (参加無料)

※グループ分けのため事前申込が必要です。

●申込締切：12/16(月)

●共催：東北公益文科大学

■問・申込み：企画情報課企画調整係

☎0234-43-0802



講師：宇都宮輝夫氏

広報委員 放浪記



巨大化した白いキノコ

◆撮影場所 第三学区 最上川堤防

遭遇したのは最上川堤防。春から夏にかけて堤防の土手の斜面にバレーボールのような白い物体を発見しました。近づいてみたら、直径20センチはあろうキノコで、発泡スチロールのような弾力がありました。調べてみると、「オニフスベ」というキノコに似ていました。大きくなるものは、60センチを越えるらしいです。3層の皮があり、一番外側は網状にヒビが入りやがて剥がれ、2番目の皮が現れさらに破れ粉状の胞子のかたまりを周囲に撒き散らし、最後は跡形もなく消えてしまうキノコ。残念ながら刈られてしまい観察は終わってしまいましたが、来年また探してみようと思います。



●取材／広報委員 ㊦

桑田の子ども消防団

◆撮影場所 狩川地区と酒田市

平成12年に桑田に子ども消防団ができました。小学生男子は紺の制服、女子はオレンジの制服を着用、幼稚園児ははんでんを着用して集落内を拍子木を持って「火の用心、マッチ1本火事の元」とみんなで声を合わせて月2回巡回していました。発足当時は小学生16人と園児4人いましたが、現在では小学生5人になっています。少ない人数でも一生懸命に声を出して頑張っている姿は、たくましくも見えます。

災害はいつ起こるかは誰もわかりません。今年のように台風で河川が氾濫したり車の水没が多数発生した年ははないと思います。避難場所の再度の確認など、家族で話し合しましょう。



●取材／広報委員 ㊦

庄内町の文化財

木造 十一面千手観音菩薩立像

文禄年間(1592～1596)、添津開村時に、羽黒山より勧請して観音堂(明治時代の神仏分離により、現在は三上神社)に祀られました。高さ92.0cm、面長11.3cm、面幅10.0cm、裾幅27.0cm、肩幅23.3cm、肘張25.0cmあります。

庄内三十三観音の第六番札所(現在は三ヶ沢白狐山光星寺)として「大慈悲の深き誓いを添津とは満つる祈りのしるしにぞ知る」と御詠歌を唱え順拝する信者も多く、稲倉魂命を祀っています。

千手観音は神仏分離以前の本尊仏で、一木造り、台座を欠きますが、頭上に十一面、手は細く長く左右に各7本ずつ計14本あり、眼は府眼、ひだは藤原の流儀を踏襲し、裾は細り、腰から下が長く、彫りはうすくなっています。鎌倉時代中期の地方仏師の作と推定されます。昭和48年2月に町指定文化財に指定されました。

